る．近年の手術手技および周術期管理の発達により手術関連死亡は1～2％となってきているが，術後合併症の発生率は30～65％と他の消化器手術に比較していまだ高率である．

膵頭十二指腸切除術後合併症として膵液瘻，腹腔内出血，腹腔内膿瘍，胃排泄遅延，胆汁漏，胆管炎，消化管潰瘍，消化管出血などが考えられる．術後管理上，最も注意すべき合併症は膵液瘻および膵液瘻出によって惹起される腹腔内出血や腹腔内膿瘍であり，これらは手術関連死亡につながる重篤な合併症である．また術後QOLの低下，在院期間の延長の原因となる胃排泄遅延は膵頭部切除術後，とくに幽門輪温存膵頭十二指腸切除術後の合併症として頻度が高く，外科臨床上，重要である．これらの膵癌手術手技および周術期管理に関する臨床研究について和歌山医大における経験を報告する．

第11回新潟胆膵研究会

日　時　平成22年9月11日（土）
午後2時～6時25分

会　場　万代シルバーホテル
5階　万代の間

Session Ⅰ　『癌化学療法・薬物療法』

1　肝局所化学療法（5FU肝動・門注）とGemcitabineによる膵癌術後補助化学療法：多施設共同の自主臨床試験の最終報告

高野　可赴・黒崎　功・河内　保之
土屋　嘉昭・青野　高志・二瓶　幸栄
伊達　和俊・小山俊太郎・横山　直行
野村　達也・皆川　昌広・北見　智恵
佐藤　大輔・太田　宏信・清水　武昭
畠山　勝義
新潟膵癌補助化学療法研究会
（新潟大学大学院医歯学総合研究科消化器・一般外科学分野，厚生連長岡中央綜合病院外科，新潟県立がんセンター新潟病院外科，新潟県立中央病院外科，鶴岡市立荘内病院外科，新潟労災病院外科，新潟県立新発田病院外科，新潟市民病院外科，厚生連村上総合病院外科・消化器内科，下越病院外科）

【はじめに】5FUの肝動注・門注（LPC）＋Gemcitabine（GEM）全身投与を用いた膵癌術後補助化学療法の自主臨床試験の結果について最終報告する．

【対象】2003年11月から2005年12月までに27例が登録された．LPCは21日以上を完遂例とし，GEM 1000 mg/m^{2}隔週投与で12回以上行った．

【結果】StageⅢ11例，ⅣA7例，ⅣB9例．LPC完遂は89％，GEM完遂は93％．生存期間の中央値28.1か月，2年生存率59.3％，3年生存率44.4％．50％DFSは21.9か月，肝単独再発は6例（22.2％）．N0-1症例（n＝16）は2年生存率68.8％，3年生存率46.9％と比較的良好であ

りN2-3症例（n＝11）と比べ有意に予後良好であった（P＜0.05）.

【まとめ】LPC＋GEMによる補助化学療法は比較的安全に施行可能であり，N0，N1症例では予後に寄与している可能性がある.

2 GEM＋S-1療法が奏功し肝切除を施行した肝内胆管癌の1例

宗岡 克樹・佐々木正貴・白井 良夫*
若井 俊文*・坂田 純*・神田 循吉**
若林 広行**・畠山 勝義*
新津医療センター病院外科
新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野*
新潟薬科大学 薬学部 臨床薬剤
治療学研究室**

GEM＋S-1療法が奏功した肝内胆管癌の1症例を経験したので報告する．症例は61歳，男性．近医でのUSにて肝腫瘍を指摘され，精査目的で入院した．CT上肝外側区域に径6 cmの辺縁不正な腫瘍と内側区域に径1 cmの娘病巣を認めた．横隔膜への直接浸潤および傍噴門および腹腔動脈根部，肝門部リンパ節腫大を認め，根治術不能と判断し化学療法を施行した．レジメンはGEM 1000mg/body biweekly，S-1 80mg/m^2 day1～14投与を1クールとした．2クール後PR INとなり，腫瘍マーカーもCEA4.1→1.5，CA19-9 14600→166と低下した．6ヵ月後のCT上肝外側区域の腫瘍は縮小し，内側区域の娘病巣は消失した．横隔膜への浸潤も軽度で傍噴門および腹腔動脈根部，肝門部リンパ節腫大も縮小した．化学療法開始後7ヵ月後に開腹手術を施行した．腹膜転移を認めたが，術中迅速病理検査で癌細胞はなく，肝左葉切除，肝外胆管切除を含むリンパ節郭清，および右肝管空腸吻合術を施行した．GEM＋S-1療法が奏功した肝内胆管癌の1例を経験したので報告した.

3 消化器外科術後頻脈性不整脈に対する薬剤治療の効果

皆川 昌広*, **・黒崎 功*
大矢 洋*, **・遠藤 裕**
畠山 勝義*
新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野*
同 救命救急医学分野**

【はじめに】頻脈性不整脈（TC）はよくみられる術後合併症の一つである．今回，消化器外科術後TC症例に対する薬剤治療の効果を検討してみた.

【方法】消化器外科術後に生じた頻脈性不整脈に対しジゴキシン（D）・ベラパミル（V）・ランジオロール（L）のいずれかを使用した症例のべ37例を対象とし，背景因子，効果について比較検討を行った.

【結果】73.6％に高血圧・心疾患の合併がみられた．各薬剤の有効率はD，V，Lそれぞれ28.5％，73.3％，85.7％であり，3時間以内の再発率は50％，27.2％，8.3％であった.

【まとめ】ランジオロールは術後TCには有効率・再発率から，他剤に勝っている．無効例は，重篤な合併症の発生に注意する必要がある.

Session Ⅱ 『症例』

4 無黄疸で発見された胆管癌の1症例

田邉 昭子・阿部 要一・山田 明
佐藤 秀一*・摺木 陽久*・東海林俊之*
津田 晶子**・岩渕 三哉***
木戸病院外科
同 消化器内科*
同 糖尿病内科**
新潟大学医学部保健学科病態検査学***

症例は，75歳男性．当院内科にて，平成2年4月より，糖尿病の治療目的に外来通院されていた．腹痛精査目的に消化管精査，腫瘍マーカーの検索を定期的にfollow upされており，黄疸，肝胆道系酵素の異常が認められなかったが，CA19-9